

令和3年度 東京都立科学技術高等学校 学校経営計画

校長 久保 剛

1 目指す学校

【教育目標】 校訓 「英知・創造・調和」のもとに、次の資質・能力を育てる。 ・科学技術への興味と関心を伸ばし、創造性や問題解決能力を育てる。 ・基礎的な知識と技能を身に付け、進路実現に必要な学力を育てる。 ・人間としての在り方・生き方を深く学び、規範意識や望ましい職業観・倫理観を育てる。 ・人を理解し尊敬できるよう他者と積極的に関わらせ、責任感のある豊かな人間性を育てる。 ・コミュニケーション能力を高め、国際社会において主体的に生きる力を育てる。 本校は、開校以来、科学技術教育を特色とする理系進学校として、生徒の科学的知識や技能を培い、国際的に活躍できる科学技術者及び日本の科学力・技術力を支える人材の育成に努めてきた。今後も、科学技術高校ならではの学習を通じて、幅広く科学技術を体験することで、科学的な思考力や表現力、課題意識等を早期に身につけさせ、大学等の専門教育への深い学びへとつなげていく。とくに単なる知識の習得に留まることなく、系統的に理解し、様々な分野に活用できる知識・技能へ発展させる。また、望ましい職業観・倫理観や規範意識、社会に貢献する志を身につけさせ、希望の理系大学への進学を目指す。そのために、次の3つの力を育てる学校を目標とする。 【育成する資質・能力】 ①新時代に生きる力（創造する力、問題解決能力、コミュニケーション能力） ②科学技術に関する基礎的な力（体系的で汎用性の高い知識・技能、職業観・倫理観） ③理系大学進学に対応した力（思考力、判断力、表現力）
--

2 中期的目標と方策

上記の教育目標、育成する資質・能力に加え、下記の中期目標を目指す。 ・生徒のチャレンジ精神を開拓し、将来の日本の科学技術を支える人材となり得る意欲や資質を伸ばす。 ・令和3年度から文部科学省スーパーサイエンススクール指定校（基礎枠開発型）となり、研究開発課題「生徒のコンピテンシーを高め合う探究力育成カリキュラムの開発」に向けて、カリキュラムマネジメントを働かせた教科連携やSS課題研究等、SS科学技術探究などのさらなる教育内容の向上を図る。 ・校外研究発表の機会を充実させるとともに、最先端の大学・研究機関との連携を推進する。 さらに、組織的に広報活動を工夫し、その充実を図ることで、本校の教育活動や施設・設備、生徒の活躍の様子等を広く周知し、入学選抜で第一志望に選ばれる学校となる。 以上の目標を達成するため、次の中期目標を設定し、教育内容と指導の充実を図る。

- （1）科学技術への意欲向上と基礎学力の育成
- ①スーパーサイエンスハイスクール指定校として、生徒の個性を伸ばし高め合うカリキュラム開発に資する。
 - ②カリキュラムマネジメントを働かせ、専門教科と普通教科を連携させ効果的な授業を展開する。
 - ③課題研究、探究等のポスター作成や説明能力、プレゼンテーションスキルの指導を充実させる。
 - ④スーパーサイエンスハイスクール指定校として、生徒の意欲を高める科学技術科の特色を生かした特別活動を実施する。さらに、理数に関する組織的教育活動を推進し他校等へ波及を図る。
 - ⑤生徒の主体性を伸ばす校外研究発表・コンテストへの参加や大学・外部研究機関との連携事業を推進する。
 - ⑥地域や小中学校と連携した科学技術啓発のための展示や実演を行う。
 - ⑦科学技術者・研究者に必要な倫理観や社会貢献の精神を育てる取組を充実させる。
 - ⑧海外学校間国際交流校として、共同研究発表での交流や姉妹校交流、英語研修の取組を推進する。

- （2）希望する理系大学への進路実現
- ①授業時間を最大限に活用するとともに、学習支援クラウド等のデジタル技術を活用した教育を推進し、自宅学習等の授業時間以外での学習の質と量を充実させる。
 - ②選抜クラスを設置して学年を牽引するとともに、外部模擬試験を活用して、生徒の学力把握及び学力向上に結び付け、多様な大学選抜方法を活用して生徒の進路実現を学校全体で支援する。
 - ③習熟度別授業や少人数授業の授業展開を工夫し、3年間を見通した教科指導を充実させる。
 - ④生徒一人一人の進路希望を実現するため、講習・補習、面接指導などの個別指導を充実させる。
 - ⑤相互授業参観やさまざまな授業研修等の活用により教員の指導力向上を図る
 - ⑥ICT等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する効率的・効果的な授業を推進する。

- （3）生徒が安心して学ぶことのできる教育環境の整備と生徒の責任感、主体性、協働性の育成
- ①体罰を絶対に許さない姿勢を全ての教職員が共有し、いじめや生命に関わる事故の未然防止、早期発見、早期対応に学校全体で取り組む。
 - ②スクールカウンセラー等を活用し、教育相談体制や特別支援教育体制を充実させる。さらに、時差通学や健康調査等を適正に継続し、新型コロナウイルス感染防止対策に万全の体制を整える。
 - ③服装等の身だしなみ指導を徹底し、挨拶の励行指導を行う。
 - ④朝の正門指導や保護者と連携を推進し遅刻防止指導を徹底する。
 - ⑤生徒会のリーダー性を育み、委員会活動を活性化する。
 - ⑥部活動を活性化し生徒の参加率を高めるとともに、生徒の主体性や協働性を育む。
 - ⑦オリンピック・パラリンピック教育を推進し、理念を学び国際理解やスポーツへの興味・関心を高める。

- （4）広報活動の充実
- ①多くの中学生や保護者等に本校の魅力ある情報を提供するために、ホームページの更新回数を増やし、学校案内パンフレット、ポスターなどを効果的に活用する。
 - ②科学技術教育の魅力を理解していただける為に、学校見学会、体験入学、学校説明会の内容の充実を図り、来校者数の増加に資する。
 - ③中学校訪問や塾訪問などの活動を活性化し、本校を第一希望とする中学生を掘り起こす取組を活性化する。
 - ④授業公開、部活動や実験・実習を紹介する動画制作、文化祭など本校の教育活動を広く周知できる取組を充実させる。

3－1 今年度の目標と方策	
(1) 教育活動の目標と方策	
1 特色ある教育活動	
①SSH指定校として、あらゆる教科で生徒の探究的な学びへの指導法を工夫し、生徒の研究発表の機会を支援する。	
②カリキュラムマネジメントを働かせ専門教科と普通教科を連携させた実践例を積み重ねる。	
③科学技術に関する専門科目や課題研究の指導を充実させるとともに、研究ポスターの作成や説明能力、プレゼンテーションスキルを高める指導を充実させる	
④自然科学部門文化部推進校として、全国レベルの研究発表会やコンテスト等に挑戦する活動を活性化する。	
⑤校外における研究発表会への参加件数を増やすとともに、大学や研究機関との連携事業を充実させる。	
⑥小中学校や他の高校と連携して、科学技術教育の普及に努め、地域の科学技術人材を育成する。	
⑦海外学校間国際交流校として、共同研究発表での交流や姉妹校交流、英語研修の取組を推進する。	
2 学習指導	
①知識・技能の習得の質を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。	
②双方向の授業を行い、生徒が思考・判断・表現する場面を設定することにより生徒の主体的に学習する態度を育成する。	
③授業参観等のOJTを充実させ、校内研修等で研鑽を積み、授業力の向上を図る。	
④外部での授業研究等の研修成果を教科会や研修会等で還元し教科指導の改善に努める。	
⑤全学年で朝・放課後の学習活動、補習等を活用してきめ細かな指導を充実させる。	
⑥学力スタンダードに具体的な学習目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行う。	
⑦習熟度別授業や少人数授業の授業展開を工夫し、3年間を見通した教科指導を充実させる。	
3 進路指導	
①進学指導研究校として、進路部主導の指導体制を確立し、3年間を見通したキャリア教育を展開する。	
②外部模試毎に目標設定や分析会を実施し、適宜ケース会議を設定するなどして学校全体で情報共有を図る。	
③自習室等の整備や課題を工夫するとともに、学習支援クラウド等のデジタル技術を活用した教育を推進する。	
④長期休業中の講習・補習、総合型選抜に対応した面接指導など個別指導を充実させ、多様な大学選抜方法を活用し、生徒の進路実現を支援する。	
⑤生徒面談や三者面談を通じて、生徒一人一人の適性・能力に応じた指導を行う。	
⑥英語検定、ITパスポート、電気工事士、危険物取扱、溶接等の資格取得に向けて、教科だけでなく学校全体で取り組む。	
4 生活指導	
①挨拶の響く明るい学校を推進し、教職員の率先垂範を徹底する。	
②基本的生活習慣の確立とともに、遅刻防止指導と身だしなみ指導を全教職員で指導する。	
③授業時間を最大限活用するとともに、チャイム始業及び終業を徹底し、授業規律の徹底を図る。	
④学校いじめ対策委員会を中心に指導体制を充実させ、年3回のアンケートなどにより、いじめや生命に関わる事故の未然防止や早期発見に努める。	
⑤防災教育推進委員会と連携し、地域防災訓練および年4回の避難訓練を計画・実施する。	
⑥情報モラルを徹底しスマートフォン等を適正に利用できるよう指導するとともに薬物乱用防止教室等の実施により規範意識の向上・啓発を推進する	
⑦交通安全やセーフティ教室等を実施し、自転車の乗り方や通学マナーの指導に努め交通安全徹底を図る。	
5 募集・広報活動	
①総務部を中心として募集対策委員会を学年・分掌を問わず公募によって編成し、積極的な募集広報活動を展開する。	
②ホームページ更新回数を増やし、教育活動や生徒の活躍を広く周知し、学校案内やポスターを効果的に活用する。	
③学校見学会、体験入学、学校説明会、個別相談、外部合同説明会の内容充実を図り来校者数を増加させる。	
④計画的、組織的な中学校訪問・塾訪問を実施し、多くの地域からの志願者を開拓する。	
⑤授業公開、部活動や実験・実習を紹介する動画制作など本校の教育活動を広く周知できる取組を充実させる。	

6 保健・健康づくり等
①学校保健計画に基づき、体力や健康づくり、食育の指導の充実を図るとともに、時差通学や個人健康観察を継続し、新型コロナウイルス感染症防止対策や教室等の環境を整備し、感染予防体制を充実させる。
②スクールカウンセラーや学校心理士等を活用し、教育相談体制や特別支援教育体制を充実させる。
③清掃活動やごみの分別を徹底して校内美化活動を推進する
④健康診断や体力テストを活用し生徒の健康維持、体力向上を図る
⑤規則正しい生活習慣を身に付けさせることで、生徒の皆勤率を高める
7 特別活動・部活動
①体育祭、四葉祭、修学旅行等の学校行事において、実行委員会を中心に取り組む態度を育成し、達成感を高める。
②地域や関係機関との連携を密にして、地域行事やボランティア活動への参加する活動を活性化させる。
③部活動への加入を奨励し、部活動の加入率を高め、文化部・運動部ともに活性化させる。
④生徒会活動でリーダー性を育成するとともに、委員会活動を充実させる。
⑤オリンピック・パラリンピック教育を推進し、国際理解やスポーツへの興味・関心を高める。
8 学校経営・組織体制
①周年行事の円滑な実施に向けて、同窓会や後援会と連携し実行委員会を円滑に運営しその準備に努める。
②次期学習指導要領の実施に向け、教育課程委員会を中心に新しい教育課程の検討を図る。
③経営企画室との連携を密に取り、空調工事の進捗状況共有を始めとした施設・設備の管理体制を強化する。
④年3回の服務事故防止研修等により、個人情報の管理や体罰等の防止対策を徹底する。
⑤部活動の休養日設定等、業務の効率化に努めるとともに、教職員の育児や介護を支援する。また、在校時間を把握し、教職員の勤務時間に対する意識改革を図る。

3－2 重点目標とその方策（数値目標）
(1)特色ある教育活動
①全国大会レベルの発表件数 10件以上 ②校外研究発表の件数 100件以上
③大学や外部研究施設の連携数50件以上 ④教科連携の授業実践例 5例以上
⑤共同研究発表等の海外交流及び海外研究者講演会等の英語をツールとした研修 5件以上
(2)学習指導
生徒による授業評価を7月、12月の年2回実施し、分析結果をフィードバックする。肯定的評価80%以上
(3)進学指導
①国公立大学合格者数 15名以上（昨年11） ②四年制大学進学率65%以上（昨年62%）
③授業以外での学習時間 2時間以上（1、2年生共通）（昨年70分）
④長期休業の講習等の開講講座数 80件以上 ⑤英検準2級程度以上の合格者数 70名以上
(4)生活指導
年間遅刻回数1日1学級1人未満（昨年0.92）
(5)募集広報活動
①ホームページの更新130回以上（昨年135回） ②推薦入試倍率 1.5倍以上（昨年1.44）
③学力検査倍率 最終応募倍率1.6倍以上（昨年1.52）、実受検倍率1.2倍以上（昨年1.04）
(6)保健・健康づくり等
教育相談・特別支援に係る委員会開催回数15回以上実施し、情報共有を徹底する。
(7)特別活動・部活動
部活動加入率 75%以上（昨年73%）
(8)学校経営・組織体制の充実
20周年式典の円滑な実施と3種類の空調工事の進捗管理の徹底